

研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

◎対象となる患者さん:

大腿骨近位部骨折^{*1}を受傷され大腿骨の骨接合手術又は人工大腿骨頭挿入を受けられた方、予防医学センターにて脳ドック検査を受けられた方

1、研究の題名 『大腿骨近位部骨折患者における特発性正常圧水頭症有病割合^{*2}についての研究』

研究期間： 2018年11月1日 ～ 2023年10月31日

*1: 大腿骨近位部骨折とは大腿骨近位部骨折とは、脚の付け根から太もも当たる骨の部分で、多くは転んでお尻を打ったときに骨折をおこし受傷します。骨粗しょう症のひどい方は、軽い外からの力で骨折する場合があります。大腿骨近位部骨折は、関節の中で折れる場合(大腿骨頸部骨折:だいたいこつけいぶこっせつ)とそれよりもう少し膝側の関節外で折れる場合(大腿骨転子部骨折:だいたいこつてんしぶこっせつ)の2つの種類があります。

*2: 特発性正常圧水頭症とは、原因は明らかではありませんが、脳の中の脳室(のうしつ)といって脊髄液(せきずいえき)というお水をつくる部分が拡大し歩くことに障害が出たりや認知症、尿失禁(おもらし)の症状を来たす病気のことです。

2、研究の目的

腿骨近位部骨折の患者さんは近年急速に増加しています。大腿骨近位部骨折は転倒によるものが主な原因ですが、転倒を起こす原因として「特発性正常圧水頭症併症」の可能性が含まれていることが考えられます。この「特発性正常圧水頭症併症」は適切な治療を施せば、症状が改善し転倒の原因を取り除くことが出来ます。この研究では「大腿骨近位部骨折」と診断された患者さんの中に「特発性正常圧水頭症併症」の患者さんがどのくらい存在しているかを調査します。

3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間： 2016年11月1日 ～ 2023年3月31日

4、本研究で使用する情報について

本研究に関して 診療記録から 以下の情報を取得します。

- ①身長②体重③性別④年齢⑤疾患名
- ⑥画像データ(X線、術前術後のCTデータ、頭部 CT・MRI データ)

5、取得情報の利用範囲

飯塚病院で使用します

6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

整形外科 園田 和彦

7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先)0948-22-3800(代表)

(担当者名)稲員 千穂